

4 校内研究の活性化に向けて

校内研修の大きな柱の一つは「校内研究会」です。その中でも特に「授業研究」は、授業改善に直接結びつくものです。

授業研究会を中心とする校内研修の意義

授業力を高める

- ◆ よりよい授業へのヒントを得ることができる。
- ◆ 他の先生の授業を観ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができる。
- ◆ 他の先生に授業を観てもらふことで、新たな気づきが得られる。

同僚性を高める

- ◆ 教師間のコミュニケーションが円滑になり、よりよい人間関係を築くことにつながる。
- ◆ 課題の共有化が図られ、その解決に向けて協働して取り組めるようになる。
- ◆ 教師集団としての意識が高まり、学校の活性化につながる。

校内研究会 活性化のための取組

■ 研究会の到達目標を明確にする

手法を取り入れることが目的にならないよう、研究会のゴール（何がねらいか、どこまで話し合うのかなど）を明確にし、共通理解してから会を始めましょう。

■ 各自が課題意識や視点をもって研究会に臨む

事前に研究会の趣旨を共通理解する、指導案や資料に目を通す、協議の柱について意見をまとめておくなど考慮し、全教職員が主体的に参加できるよう準備をしましょう。

■ ワークショップ形式の研修を工夫する

アイスブレイク等で話しやすい雰囲気を作る、ワークシートや付箋紙を活用し、意見を出し合う、小グループ（年齢・学年・得意分野・研修履歴等のグループ分け）で話し合うなど、研修方法を工夫しましょう。

（資料編、「元気の出る校内研修の手引き」参照）

■ 研究会で確認したことや評価したことを共通理解する

小さな変容や進歩が実感できるように、短期間でめざすものをスモールステップにしましょう。

取り組みやすいところ、変化が見えたところから肯定的に評価し、教職員に発信しましょう。



研究だより等を通して、次の日からの共通実践につなげていきましょう。

	智頭小 研究担当 平成24年 7月 4日 NO. 1
<h3>第2回授業研究会のまとめ</h3> <p>～グループ協議より～</p> <p>〈伝え合い、深める学習の工夫と課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベア学習の効果…自信につながる 発言の場の保障 意見が持てない児童が友だちの意見を聞くことで、意見が持てる ・なぜベア学習をするのかめあてを明確に持つ ・ベアの組合せへの配慮 ・ベア学習について、どんな仕方であつてもはっきりさせる。 全体発表の場でも見聞をも増進させたい。 	
<p>〈共通実践事項〉今後の授業で意識したいこと ……………</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ベアやグループの話し合いの目的を明確にする。「何のために話し合うか」 ◎自分の考えを書いてまとめる時間の確保 	